



CAR MAINTENANCE
GUIDE



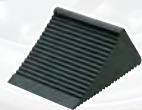
Let's try

自分でできる! タイヤ交換

知識がなくても手順を守れば安全でかんたん!



必要な工具例



タイヤストッパー



クロスレンチ



フロアジャッキ



ジャッキスタンド



トルクレンチ



タイヤゲージ

手順

- 1 タイヤを固定する
- 2 ホイールナットを緩める
- 3 車体を持ち上げる
- 4 ジャッキスタンドを準備し、車体を保持する
- 5 タイヤの取り外し
- 6 タイヤの取り付け
- 7 ジャッキスタンドを取り外す
- 8 車体を下ろす
- 9 ホイールナットの増し締め
- 10 空気圧チェック→作業完了

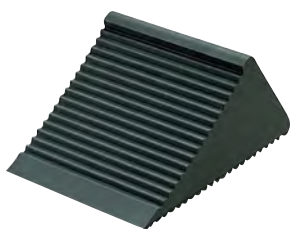
BAL

<http://www.bal-ohashi.com>

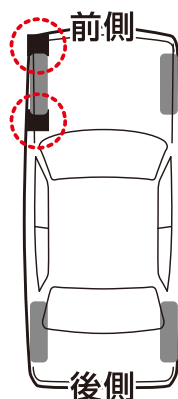
1 タイヤを固定する

用意
するもの

タイヤストッパー



※右図は車の後側をジャッキアップするときのタイヤストッパー設置位置です。



- 平坦で堅い地面で作業を開始します。
- エンジンを切りサイドブレーキをかけ、ギアをAT車はP(パーキング)に、MT車は1速ギアかバックギアに入れます。
- 事故防止のため、ジャッキアップする反対側のタイヤをタイヤストッパーで固定します。

2 ホイールナットを緩める

用意
するもの

クロスレンチ



- ホイールキャップやセンターキャップなどがついている場合は、取り外してホイールナットが見える状態にします。
- ホイールナットにクロスレンチの適合するサイズを差し込み、反時計方向に回してホイールナットを少し緩めます。(約1回転) この時に上側のホイールナットから対角線の順番に緩めていきます。

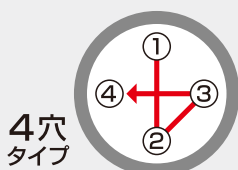


一部の車種ではナットの締め付け方向が逆の場合があります。



ワンポイント

ナットの取り付け取り外しの際には、1本のハブボルトやナットに過大な負荷がかからないように、バランスよく作業することが大切です。下図のような順番で徐々に「締める/緩める」作業をしていくことが、安全で確実な作業につながります。



4穴
タイプ



5穴
タイプ



6穴
タイプ



ホイールナットを緩める際に、クロスレンチに乗ったり、パイプをつないだりしないでください。ケガや破損の原因になります。固く締まったナットを緩めるときには十分ご注意ください。

3 車体を持ち上げる

用意
するもの

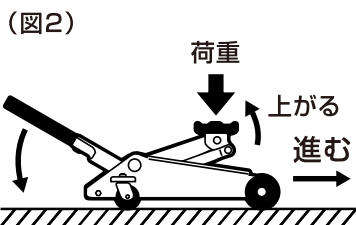
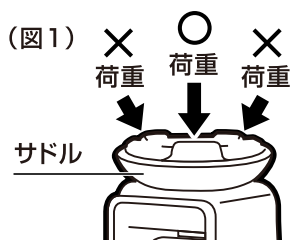
フロアジャッキ



リリースバルブ
ハンドルスリーブ

- フロアジャッキを使用し、車体を持ち上げます。
- フロアジャッキのリリースバルブを付属のハンドル先端で時計方向に回して確実に締めた後、ハンドルをハンドルスリーブに入れて上下に動かしてください。
- 油圧がかかり、サドル部分が上がっていきます。

※サドルがジャッキアップポイントに確実に当たっていること(図1)、ジャッキアップするに従い、フロアジャッキ本体が徐々に車体の下に移動していること(図2)を確認しながらゆっくり上げてください。

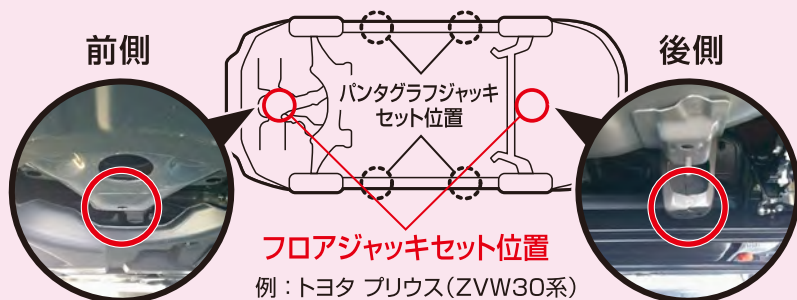


車体をフロアジャッキのみで保持している状態は不安定で大変危険ですので、絶対に車体の下に入らないでください。

重要

ジャッキアップポイントの例

フロアジャッキのサドルを車体に当てる場所は車種により異なります。また、これは車載のパンタグラフジャッキを使用する場所とも異なりますので、事前に自動車の取扱説明書や自動車メーカーにて確認してください。



自動車メーカーの指定するジャッキアップポイント以外ではジャッキアップしないでください。車体が変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

- ジャッキアップ用アダプターを使えば、パンタグラフジャッキセット位置でフロアジャッキを使えるようになります。

便利グッズ



ジャッキアップ用
アダプター



4 ジャッキスタンドを準備し、車体を保持する

用意
するもの

ジャッキスタンド



便利グッズ



ジャッキアップ用
アダプター



※上写真はジャッキアップ用アダプターを使用して
パンタグラフ用ジャッキポイントで保持しています。

- ジャッキスタンドを使ってジャッキアップした車体を保持します。
- ジャッキスタンドに車体を乗せるポイントはフロアジャッキのジャッキアップポイントとは異なります。事前に自動車の取扱説明書や自動車メーカーにて確認してください。
- フロアジャッキのリリースバルブを反時計方向に少しずつ緩めていくと、徐々にサドルが下がっていきます。
- 車体を保持するポイントがジャッキスタンドのサドル部分に当たるまでゆっくりと下げていきます。
- ジャッキスタンドが車体を確実に保持していることを確認してからサドルを最後まで下げてください。

5 タイヤの取り外し

- ジャッキスタンドが車体を保持していることを確認してから、**2**で緩めたホイールナットを、更に緩めて取り外します。
- 車体がジャッキスタンドから外れないように注意して、タイヤを取り外してください。取り外したタイヤを車体の下に置いておくと、万一車体が落下した場合への備えとなります。



便利グッズの
ご紹介コーナーを
チェック!→



ホイールナットを紛失しないように注意してください。

6 タイヤの取り付け

- 装着するタイヤ(ホイール)のボルト穴にすべてのボルトを通してからホイールナットを手やクロスレンチで時計方向に回して、タイヤがぐらつかない程度に仮締めしてください。



便利グッズの
ご紹介コーナーを
チェック!→



ホイールナットの向きに注意して取り付けを行ってください。

7 ジャッキスタンドを取り外す

- 3と同様に、車両をジャッキアップします。この時、ジャッキアップする高さの目安はジャッキスタンドを取り外せる高さとなります。
- 目安の高さまで上げた後、車体が安定していることを確認し、ジャッキスタンドを取り外します。

8 車体を下ろす

- ジャッキスタンドを取り外したら、フロアジャッキのリリースバルブを反時計方向に少しずつ緩めて、タイヤが接地するまでゆっくりとサドルを下げます。
- フロアジャッキを車体の下から移動し、タイヤストッパーを外します。



9 ホイールナットの増し締め

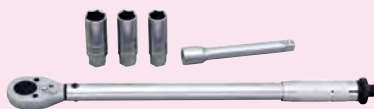
- タイヤが地面に接地している状態で、ナットの増し締めを行います。

重要

トルクレンチでの締め付けトルク管理

**用意
するもの**

トルクレンチ



確実に取り付けようとしてナットを強く締め付けてしまいがちですが、締め付けすぎてしまうとボルトとナットを傷めてしまい、ボルト折損やナットの固着の原因になります。トルクレンチを使用して、規定のトルク値で締め付けてください。

締め付けトルク例

自動車のホイールナット

- 軽自動車 70～90 N・m
- 普通車 100～110 N・m

※締め付けトルク値は車種によって値が異なりますので、取扱説明書か自動車メーカーにてご確認ください。



レンチに体重をかける等、強く締めすぎるとナットやボルトを傷め、ボルトが折れたりナットが外れなくなることがあります。特にクロスレンチを足で踏むと思わぬ事故やケガの原因となります。



10 空気圧チェック→作業完了

用意
するもの

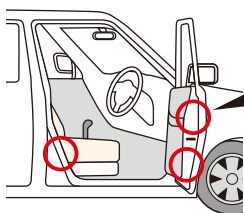
タイヤゲージ



便利グッズの
ご紹介コーナーを
チェック!↗

- タイヤの空気圧が適正であるか、タイヤゲージで確認をします。不足している場合はエアーコンプレッサーやフットポンプで空気を入れてください。

※空気圧は運転席ドア付近（下図 ○ 印）に貼られている「タイヤ空気圧」の表で正しい空気圧を確認の上調整してください。



タイヤ空気圧 (kPa [kg/cm²])

タイヤサイズ	前・後輪
195/65R15 91H	200[2.0]
応急用タイヤ	
T135/70D16 100M	420[4.2]

表示例

※車種によって表示位置が異なりますので、ご使用の車でご確認ください。

- 安全のため、しばらく走行したあとナットのゆるみやタイヤに異常がないことを確認し、作業完了となります。

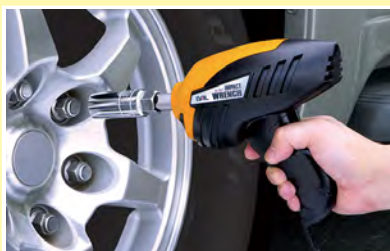


便利グッズの ご紹介



電動インパクトレンチ

- アクセサリソケットから電源をとり、モーターの力で楽にナットの「緩める/締める」作業をすることができます。
- 操作がシンプルで初心者の方も安心して作業を進めることができます。



オイルパンタ グラフジャッキ

- パンタグラフジャッキと同じ場所で車体を持ち上げることができます。
- 油圧を使ったジャッキアップが可能となり、車載ジャッキに比べ作業の効率が上がります。



エアーコンプレッサー

- アクセサリソケット電源を使用して、楽に空気入れができます。



フットポンプ

- ゲージ付きで、自動車・バイクや自転車にも空気入れができます。

※掲載情報は予告なく変更することがあります。作業の際には安全に十分注意し、個人の責任で行ってください。
※本カタログを無断で複製、複写、転用することは法律で禁じられています。

大橋産業株式会社

〒570-0033 大阪府守口市大宮通3丁目1番14号
TEL (06) 6996-2631 (代) 大阪本社 東京支社

171060000



BAL ホームページ